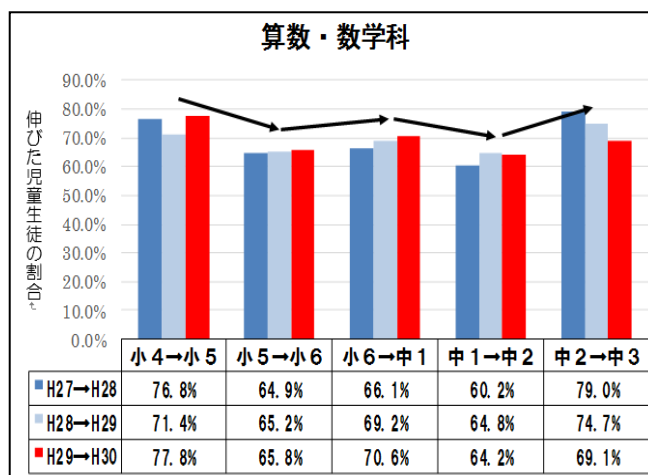
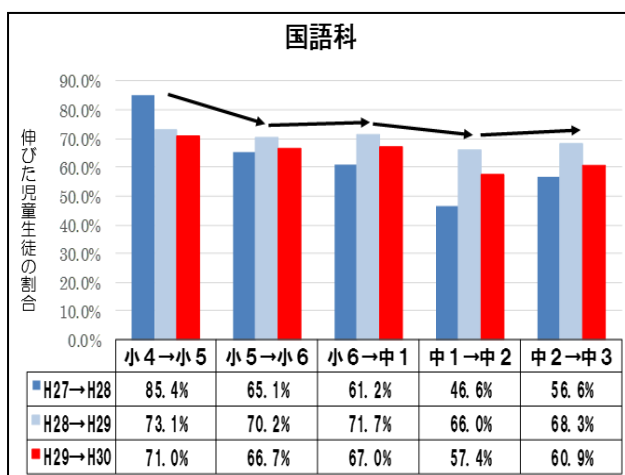


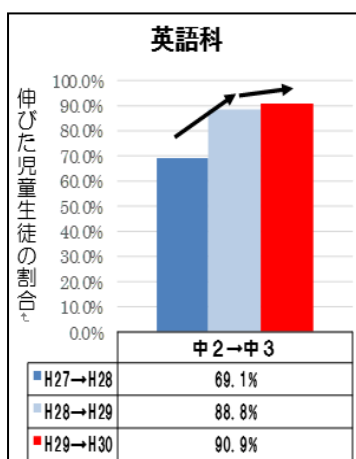
「学力の伸び」の状況（平成27～30年度）

埼玉県学力・学習状況調査の実施も、今回で4回目となり、3度目の「学力の伸び」の状況が分かりました。これらの結果の傾向と対応策をお伝えします。

傾向

- 「学力の伸びた児童生徒の割合」が最も多いのは、小学校4年生から5年生にかけてであり、**最も少ないのは中学校1年生から2年生にかけて**である。教科担当制に変わるなどの学習環境の変化、新しい教員や友人との関わりなどの生活環境の変化等により、学習面での伸び悩み（中1ギャップ）が起きていることが考えられる。
- **小学校5年生から6年生にかけて、「学力の伸びた児童生徒の割合」が減少**することがわかった。例えば国語科において、複数の資料を読み取って記述するなど、より多面的な思考が求められることや、算数科において、割合の学習など、学習内容の抽象度が上がることなど、学習内容が難しくなることが原因であると考えられる。
- **中学校2年生から3年生にかけて「学力の伸びた生徒の割合」が増加**する。中学校の学習環境・生活環境に慣れてくることや、高校入試を意識して家庭での学習などに一層力を入れたりすることが考えられる。





※数値の見方

上記のグラフ及びデータは、昨年度から「学力の伸び」が見られた児童生徒数の受検者数全体に対する割合です。教科ごとに「学力の伸び」が見られた（各学校に送付した帳票 01「教科に関する調査 採点結果」にある「昨年度からの学力の伸び」の値が1以上であった）児童生徒数を、受検者数で割った値です。

いわゆる「伸び率」（全ての児童または生徒の「学力の伸び」の値を足し合わせて、受検者数で割った値）ではないことに注意してください。

対応策

【よい取組の共有】

子供たち一人一人のつまずきを早期に発見・支援するとともに、学力を大きく伸ばした（学力を伸ばした児童生徒の割合が大きい、学力の伸び率が高い）学年や学級を把握し、担当者からの聞き取りや授業参観を行うなど、効果的な取組や工夫を、学校全体で共有し実践する。

【主体的・対話的で深い学びと学級経営の充実】

本調査のデータ活用事業での分析結果を踏まえて、主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた授業の工夫・改善と、学級経営の充実を進める。

【小中連携の推進】

中学校区内の小・中学校で合同研修会や授業研究会を実施し、指導法の違い等について共通理解を図るなど、学習面での小中連携を一層進める。

教科別授業改善の視点

国語科

【多面的な思考を求める活動の設定】

- 複数の本や新聞などの資料を活用して自分の考えを書いたり、他者や本との対話から自分の考えを整理して表現したりする場面を意図的に設定しましょう！

【言葉の特徴や使い方に関する事項の定着】

- 主語と述語の関係や、修飾と被修飾との関係などの〔知識及び技能〕の定着を図りましょう。その際には、他教科や日常生活、社会生活等で生かせるような具体的な場面をイメージさせ、思考・判断、表現することを通じて定着させましょう！

【指導のねらいの重点化を図る言語活動】

- 理由や根拠を基にして、自分の考えを文章にまとめる活動や話し合う活動を計画的に行い、苦手意識をなくすようにしましょう！
- ねらいに即して子供の発言を切り返したり、問い直したりして「言葉への自覚」を高めさせましょう！

【振り返りの実施】

- 子供自身が考えの変容を確認したり、新たな問いや疑問を持ったりすることができるよう、学習した過程を振り返りましょう！

算数・数学科

【日常生活や社会との関連を図った課題設定】

- 学習課題を日常生活や社会と関わりを持たせることで、イメージを持って課題に取り組めるようにしましょう！

【見通しと振り返りの実施】

- 既習の確認、具体物の操作等、全ての子供が自分なりの考えを持てるように支援しましょう！
- 自分の考えた結果や過程を振り返る時間をとりましょう！

【言語活動の充実】

- 問題場面を、図、式、グラフなどの数学的な表現で表せるようにしましょう！
また、それらと言葉を関連づけて、他者に説明できるようにしましょう！
- 子供の発言への切り返しや、子供の発言をつなぐことを意識しましょう！

【統合的・発展的に考える力の向上】

- 子供たちがそれぞれの考えの共通点や相違点を見付けたり、問題の条件を変えて考えてみたりするなど、思考を深める場面をつくりましょう！

英語科

【ゴールを明確にした授業づくり】

- 生徒に身に着けさせたい力を明確にした「単元のゴール」や授業1時間のゴール（めあて）を生徒に提示することで、学習の見通し（目的）を持たせましょう！

【目的・場面・状況設定を大事にした言語活動】

- 具体的な場面・状況を設定し、言語活動に必然性をもたせ、生徒自身の考えや思いを表現したり伝え合ったりする活動を行いましょ！

【相手意識を持たせた表現活動】

- 英語を話したり、書いたりする活動では、誰に、何のために伝えるのかを明確にして、相手意識を持った表現活動を行いましょ！

【既習事項をフル活用させる活動】

- これまで学習した表現をフルに活用できる場面を設定し、聞く、読む、話す、書く言語活動を通して既習表現を定着させましょ！

【フィードバックや振り返りの充実】

- 生徒が行った活動の意味づけのためのフィードバックや、成長の実感、疑問の顕在化のための振り返りを充実させましょ！

これらの「授業改善の視点」は一例です。こうした視点を参考に、各学校の実情に合わせた工夫・改善を行い、児童生徒一人一人に応じた指導の充実を図っていただきますようお願いいたします。